

会は OECD の雇用労働社会問題委員会 (ELSAC) の下に設置され、毎年秋に開催される「移民専門家会合 (SOPEMI)」と並んで、毎年 6 月に行われるものであり、OECD 加盟国各国の移民政策に関する実務担当者が一堂に会し、各国の最新の情報、意見交換を行うことを目的としたものである。

会合は 2 日間の日程で行われ、OECD 加盟国を中心とした世界の国際人口移動の潮流について事務局より報告があった後、各国から最新の状況について議論が行われた。特に今回は本年 1 月に行われた同作業部会拡大ビューロー会合にて是川より提案のあった一時的移民 (Temporary Labor Migrant) の労働市場への影響に関する分析結果が事務局より報告されるなど、日本によって有益な知見が示された。

また、同会合開催中、今後の OECD 事務局の活動方針を議論するビューローメンバー会議が開催され、是川も 7 名からなるビューローメンバーの一人として参加した。同会合では来年、日本が議長国を務める G20 での移民政策の取り扱いといった事項について議論が行われた。(是川 夕 記)

## 高齢化及び年齢別詳細データに関するティッチフィールドグループ会合

2018年3月の国連統計委員会で、シティーグループ(分野別統計検討会)の一つである「高齢化及び年齢別詳細データに関するティッチフィールドグループ(TCGA)」の発足承認を受けて、2018年6月26日(火)～28日(木)、英国ウエスト・サセックス州チェスター大学で、第一回会合が行われた。シティーグループ準備のための会合は昨年2017年8月にも英国で行われ、2018年3月の国連統計委員会でサイドイベントも行われたため、TCGAとしては三回目の会合となる。会合には37ヶ国の統計局および関連機関、国連機関(UNDP, UN Women, 社会開発部, WHO, UNFPA, UN-Habitat), HelpAge International などの NGO, 学術機関から合計76名が参加し、今後の進め方や国連および各国事例の紹介、高齢者統計に関する現状把握のための3グループに分かれた討論などが行われた。

TCGAは英国国家統計局(ONS: Office for National Statistics)が事務局となっているが、2006年に地方分権政策の一環で本部はウェールズのニューポート市、人口関係などの一部の部門はハンブシャー州のティッチフィールドに移転し、TCGAの名前は由来はそこにある。本会合に先立って、ティッチフィールドのオフィスも訪問し各種聞き取りを行ったが、ティッチフィールド、チェスターいずれも小さな町ではあるが、鉄道網により比較的短時間で移動できる位置にあり、英国の地方分権の状況も体感した。(林 玲子 記)

## アジア人口学会第4回大会

アジア人口学会第4回大会(The 4<sup>th</sup> Asian Population Association Conference)が、2018年7月11日～14日に中国・上海大学宝山キャンパスにて開催された。2010年のニューデリー(インド)、2012年のバンコク(タイ)、2015年のクアラルンプール(マレーシア)に続いて4回目となる本大会には50カ国以上の大学・研究機関、国際機関、政府機関、民間団体等から約500名の参加があり、計80以上のセッションで約450本の研究発表(ポスター発表を含む)が行われた。また、一般セッションと並行して15のワークショップならびにサイドミーティングが開催され、活発な討論や意見交換が行われた。当研究所からは、林玲子(国際関係部長)、福田節也(企画部第2室長)、中川雅貴(国際関係部第3室長)、菅桂太(人口構造研究部第1室長)が参加し、それぞれ以下の研究発表を行った

(いずれも口頭発表セッション).

- Hayashi, R. “The Demand and Supply of the Long Term Care for the Elderly in Asia”
- Fukuda, S. “Gender Role Division and Parity Progression in Japan: A Period Comparison of Population-Based Longitudinal Studies” (T. Kato との共同発表)
- Fukuda, S. “The Implications of Demographic Change for Asian Marriage Markets, 2010 – 2050” (Y. Cheng 他との共同発表)
- Nakagawa, M. “Living Arrangement, Local Care Facilities and Residential Mobility of the Elderly Population in Japan: A Multilevel Analysis”
- Suga, K. “Ethnic Differentials in Effects of 1st Marriage and Marital Fertility on Below Replacement Fertility in Singapore, 1980-2015: A Multistate Lifetable Analysis”

(中川雅貴 記)

## 第2回ソウル人口シンポジウム

ファイナンシャルニュース新聞と社団法人ソウル人口フォーラム、韓国バイオ協会の共催による第2回ソウル人口シンポジウムは、2018年7月12日、ソウル汝矣島のコンラッド・ホテルで開催された。第1回(2017年11月16日)には外国人パネリストとして、津谷典子・慶應義塾大学教授と陸傑華・北京大学教授が招聘されたが、今回は Thomas Fent ヴィトゲンシュタイン人口・グローバル人的資本センター(オーストリア) 研究員と筆者が招聘された。

午前中のセッションでは、まず曹成虎・韓国保健社会研究院副研究委員が「低出産と政策対応の日韓比較」に関する講演を行い、出生率低下の要因としては夫婦出生率低下より未婚化の方が重要だが、韓国の低出産対策は夫婦出生率向上に向けた施策に偏っていることを指摘した。Fent 博士は“Change of Family and Ultra-low Fertility”と題した講演で、マルチエージェント・モデルを用いて家族政策の出生促進効果を検証した。筆者は“Family and Demographic Changes in Eastern Asia”と題した講演で、出生力の文化決定論を提示し、日本の移民政策の動向について説明した。引き続きパネル討論が、趙成漢・中央大学教授の司会で、朴京淑・ソウル大学校教授をコメンテータに迎えて行われた。

午後のセッションでは金ジンウク・西江大学校教授が「家族における男性役割の再構築」、申ギョニア・翰林大学校教授が「韓国の低出産対策のジェンダリズム」について講演し、李ジョンジム・女性家族部政策官と金テホァン・東亜大学校教授をパネリストに迎え討論が行われた。Fent 博士と筆者も最後まで会場に残り、コメントを述べてシンポジウムを終了した。(鈴木 透 記)

## 国際社会学会第19回世界社会学会議

“Power, Violence, and Justice: Reflections, Responses, Responsibilities”と題した国際社会学会(International Sociological Association)第19回世界社会学会議が、7月15日から7月21日の間トロントで開催された。

国際社会学会は57の Research Committee (RC) からなる大きな組織であるが、なかでも世界社会学会議は4年に1度開催されるもっとも大規模な会である。今回は全世界から5,000人以上が参加